

## 2023年度倫理委員会研修

### 「看護実践のジレンマ

～管理者としての倫理的意思決定のあり方を事例を通して思考する」実施報告

#### 企画

開催日時: 2023年12月2日 15:00~16:30

開催場所: Zoom

配信場所: 慶應義塾大学病院

#### 企画概要

二つの事例を通してジレンマに関してディスカッションを行った。

#### 第一事例

代理医師決定のあり方に悩むスタッフへの看護管理者としての関わり

#### 第二事例

家族の希望が優先される状況に向き合うスタッフと共に思考する看護管理者の役割

#### 数値実績

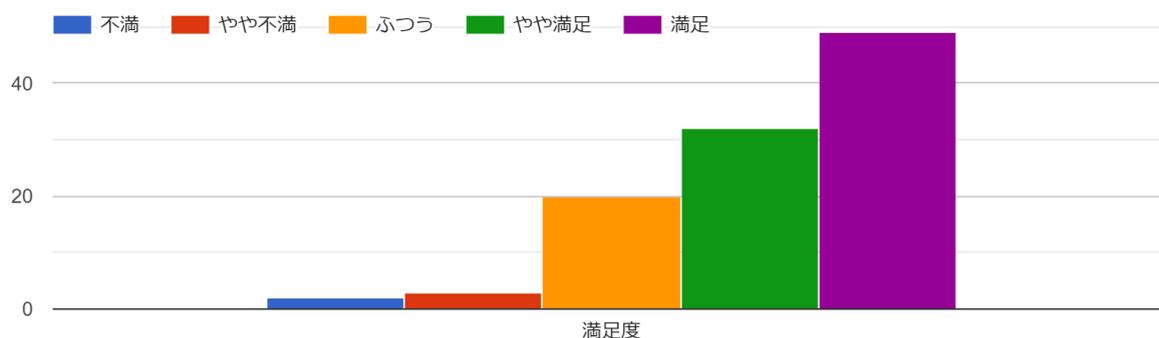
申込者数: 366名 (会員69.6% 非会員30.4%)

アンケート回答者数: 106名

#### アンケート結果

##### 質問1: 当企画の満足度

当企画の満足度



##### 質問2: 上記満足度の理由を教えてください

改めて大切にすべき視点について考えることができました

身近にある事例を共有できた。

なるほどと思える観点がたくさんありました。同じことに悩んでいるんだと実感しました

川島みどり先生のお話が聞けたから。

大変考える機会となった

川嶋先生の発言からたくさんの学びを得られたため

あるべき論に陥っている事に気がつけたから

共有から学びたい事に繋がったから。

あるべき姿より患者様の気持ちを優先することの方が重要という考え方ができていなかったなあと考えさせられたため

複数の事例で検討(意見交換)している場面を拝見でき、考える視点をもらえました

現場の状況を一緒に考えることができました

倫理的な事例やエピソードをもっと聞きたかった

たくさんの学びがありました。

事例が典型的な例で、参考になった

自己の課題、自施設の課題についての解決策を考えることができたから

多様性と言われているのに、～するべき論にとらわれている、頭が固いのだなと感じ特に新しい発見はなかった

実際の事例と倫理コンサルタントの方からの話しもあり、状況がわかりやすかった

もう少し患者の意思がわかるとより深まると思った

いろんな方向で話を聞く事ができた。

日々様々なジレンマを抱えておりその1つの解決の糸口になった

事例に対して、どう考えるかがわかりやすかったため

事例について、報告して下さった方がケアに直接関わったわけではないことの限界を感じました。

倫理的課題と思っていたことが、倫理的な悩みであることに気づくことができた。

悩みと葛藤を区別して考えていく、ということが心に残りました。その人の最善を考えること、考える時間を作ること、何でもかんでも看護で引き受けないこと、考えながら過ごしていきます。

倫理的課題について、自身の中で整理することができた

日常的にある問題に着目して頂き、ともに考えることができました。

どこにでもある事例で、軽く考えてしまう事例でもあり、改めて考えることができた。

倫理について何でも看護師が、抱え込んで対処しなくてはと思っていたことに気づいた

ディスカッションより、教授の形式であったように感じた

川嶋講師からのコメントが聞けた。

既存概念とのギャップに戸惑うことを再確認できた。

倫理的意思決定のあり方において、本当に看護なのか、本当の看護は何かを考える機会になった。

ディスカッションがよかったです。

看護の本質について再考できました。

川島みどり先生のお話をもう少し聞きたかった。

事例を提供いただき真摯な検討は意味あるものだったと思います。  
一方、参加者は蚊帳の外のように雑誌の記事を読むのとかわらないような印象を持ちました。

もう少し長くディスカッションし、いろんな価値観を共有して方がいいのではないかと思う、  
時間がなさすぎて意見を言えなかった。

癌の告知はした方がいい、すべき、といった、医療のあり方が変化している中で、告知そのものが本当に患者さんにとって必要かどうかを問うところからスタートしないといけないと気づかされたから

もう少し管理者として判断の迷いを深掘りして欲しかった

倫理的問題を議論することで、自院に活かせる内容でもあったため。

川島みどり先生の考え方を直接聞けたことが良かったです。

現場の声が分かりやすく発表されていた。すぐに実践にいかせる。川島先生の柔軟な回答に感銘を受けた

当たり前のことで悩むのではなく、看護を行うことに軸足を置くことの再確認ができた

会場の意見がもう少し聞けるとよかったです。

川嶋先生のご意見が、現場で働く看護師として必要なものは何であるのか、とゆうことを教えてくださった気がします。  
貴重なお時間をありがとうございました。

他施設での事例から先生の知見を聞くことで考え学ぶ機会となりました

悩みと葛藤の違いを区別して考えること、国の文化の違いを尊重して本人を尊重した関りが重要であることを事例を通して川島先生からの示唆で学べたから

川嶋先生の本質をつくお言葉には、改めて看護とは！を考えるきっかけをいただきました。

限られた時間の中で、多くの示唆を得ることができました。

やや理解が難しいところがあった

実際に管理している上で起こりうる事例だったから

自分の部署でも起こり得る倫理的課題だった。インフォームドコンセントの本来のあり方、患者をしっかりと見て、思いを感じて看護に邁進する事、などの原点を振り返る事ができた。

ルールに捉われすぎることのデメリット、看護は有限であるということ、本業を見失わないようにしたいと改めて思いました？

管理者としての関わりはどこまでなのか

事前に資料を頂けるとさらによかったと思いました。

事例が実践に即していたのでよかった。

事例を用いて様々な意見を聞くことができ学びを得ることができた。川嶋先生のお言葉に看護職として問題に取り組む際の立ち位置を明確にすることの重要性を実感した。看護職ができること、やらなければならないことの境界を見誤ると、看護職にとっても患者にとっても良い結果はうまれない。

既成概念を取り除くことができた

川島先生のお話が心に響きました。管理者としての有り様を問われ、固定観念にカチカチになってる私たちがあるようにも思いました。

意思決定は何のために誰のためにするのか、ということに改めて考える必要があると感じました。

倫理については日頃からいろいろな方の多様な価値観に触れておきたいと思っています。今回は管理者の方の思いにもふれることができたこと、川嶋先生はじめ、いろいろな方の考え方に触れることができました

満足したが満足の回答選択がなかった。

Zoomでの開催や開催日時など参加しやすい。また講師の先生のお話もとても勉強になりました。

倫理的課題の考え方を学ぶことができた。  
川嶋先生の考え方は、非常に参考になりました。

事例を通して考えることができた。

知らず知らずのうちに組織の方針や慣例を自身の倫理観であると思い違いしていることに気が付きました。腑に落ちない感覚を大切にしていきたいと思います。

管理職として、組織の方針との葛藤があるが  
「葛藤があってよいこと」システムを変える気持ちで取り組むといった、パワーをもらいました

「管理者」の「倫理的意思決定」のジレンマとは少し離れていた事例と思われましたので、その点ではやや不満ですが、陥りやすい考え方に気づくことができた点で1段階評価をアップしました。

事例の倫理的視点が不明確でしたが、川島先生のお話は腑に落ちました。

良いがなくふつうにしましたが患者さんの気持ちを知る難しさを改めて考えました。

看護は何をするのか、管理者としてよく考えることや、目の前の患者さんや患者さんを支えている人に自分たちが何をできるか考えケアすることに力を注げるように、管理者として行動することが大切だと改めて理解できました。

川嶋先生の明快な回答

実事例から倫理について考えることができた  
現場の葛藤と川島先生の論理的な考え方に共感できた

短い時間の中でも倫理的ジレンマへの対応のエッセンスを学べたから。

事例の検討であっちめ、共感しながら学べた

身寄りのない患者の参考になった。パートナーは内縁の妻に位置付けて良いのか、社会福祉の対象者として、MSWが介入する事例でもあると思う。

悩みと葛藤の違い、固定概念をぶち壊し患者さんの最善に向き合うことが大切であることを学んだ

最初の事例(独居身寄りなし内縁関係者のみ)などが明らかに増えてきました。またコロナ禍で減っていた外国籍の患者もふえつつあります。どちらの事例も我がことのように感じました。自分ならどう考えてどう行動するか、自院ならどんな動きになるのか想像しながら参加できたため大変満足です。

私はアジア圏後発開発途上国で3年間医療活動経験があります。言語の壁の前に異文化理解や多文化共生など私達日本人が不得意とする側面があります。私のような経験者だけでなく市中の看護師達にも国際看護の視点が必要な時代であることを痛感しました。

管理学会で取り扱う倫理事例とは思えなかった。現場の管理者が本当の意味でケアができるようチームのマネジメントしているのではないという実態を知った点では学びになった。今日の事例は悩むポイントがスタッフレベルと思った。

講師と情報提供者・座長とのセッションを通じて、多くの視点や観点を学ぶことができた

川嶋みどり先生が講師でディスカッションされたこと

川島先生の意見を聴く会のようで、答えのない問題を扱っているにもかかわらずダイアログになっていなかったのがしんどかったです。なるほどなと思える内容もありましたが、現状にそぐわないと思える内容もありました。時間も早く終わってしまったのも残念でした。

アンケートの冒頭の「自由意志」は「自由意思」だと思います。

倫理課題の対応は理想の様なことばかりだと考えていましたが、今回の事例は今まさに感じているジレンマで、自分事として考えることができました。また、明日からの実践に直ぐ役立てられると感じ、看護管理者として常に迷える現場の看護師を導かなければならないというプレッシャーから少し楽になりました。川嶋みどり先生のことばすべてと、座長の先生方の導き、発表された先生方の勇気に私もまた明日から看護管理者として頑張ろう！という勇気を頂けました。研修に参加させて頂けたことに心より感謝を申し上げます。素晴らしい研修をありがとうございました。

事例のリフレクションを基に、部署でアクションしていくために管理者としての内省を学ぶことができました。

代理意思決定者を選択する際、看護師は情報提供する程度の関わりでよいと言われていたが、それなら誰が代理意思決定者を決めてくれるのか？疑問に思った。現状、看護師がその役割を担っていることが多く、他の職種がそれをしてくれる感じはないので誰に委ねるのが教えて欲しい。

川島先生のコメントがずばりのを得てスカッとした。

事例の提示もわかりやすく、講師の意見も興味深い内容でした。

新たな知見につながるものを見つけられなかった。事例の共有方法を工夫し、もっとディスカッションができる時間があるとよかった。もう少し管理が活きる事例で、川島先生のご意見を聞きたかった。

実症例を通して実際に行ったことやアドバイスが聞けた

日本以外での倫理的視点について、新たな気づきにつながったため

もっと色々なケースを聞きたかったです。

倫理的ジレンマ、葛藤といった言葉の定義についてあらためて正しく活用しようと思えたこと。

悩みと葛藤との違いや倫理について整理することができた

倫理的課題を考える中で『規定概念』をどのように考えるかという事についての、示唆を頂いたことや、悩みと葛藤の違いについて整理できたことで、今後も現場のスタッフと共に考えることができると感じております。

看護師としてだけでなく、人として  
考える事の大切さを学んだ

本人が告知を望まない時は病状や治療について告知しないことがあるということを学べたから

私はいまベッドサイドにいないので、いまのベッドサイドでの事例について知ることができたことと、川島先生の意見をじっくり聞くことができたことが理由です。

最後に、総まとめ的に川島先生の看護師の倫理に関するお話を聞けたらよかった

貴重な事例・意見交換を聴けたため

川嶋みどり先生のアドバイスが励みになったのと、臨床で悩みを抱える師長様の実態が知れたからです。また、看護がすべきことは何かを組織で共通理解していく必要があると感じたからです。

家族との関わり合いで看護師が介入すべきか否かが状況に応じて判断すべきだとわかりためになった。

時間がない中、2事例を取り上げており、事例の具体的な状況を十分お聞き出来なかったため、不消化感がありました。また、ご高名でレジェンド川嶋先生のコメントがお聞き出来たのは貴重な機会ではありますが、倫理の検討はひとりの看護師の意見ではなく多様な意見を検討することが重要かと思うので、倫理検討をするのであれば、多くの意見をお聞きする仕組みだったらよりよかったです。川嶋先生には事例のコメントではなく、ご講演で別途じっくりとお話をお聞きしたかったです。

臨床倫理における検討に参加できたので、今後役に立つと思うため

わかりやすい

質問3:事例1について、ご意見やご感想がございましたらご記載ください

改めて倫理問題には正解がなく、時代に合わせた考え方が必要であることを考えさせられました

情報があらかじめもっとまとまっていると前向きなディスカッションに時間が使えたのではないかと少しもったいない気がしました。

患者の社会背景における情報が少なく判断するには、難しい事例と思います。その状況において、組織のルール・規定概念と倫理コンサルテーションチームとの間で、看護師は葛藤しているのではないかと感じました。

患者やキーパーソンに対する配慮とともに、その方に代理意思決定をしていただくことが法的にも(病院にとっても、キーパーソンの方にとっても)よいのか、ということも私だったら

確認したいと思いました。そういう点でも、川嶋先生がおっしゃった、全部をナースがすべきかどうかという問いかけは重要だと思いました。

看護師に葛藤を抱かせているのは、病院のルールであること、そのルールは誰のものであるかを考え、看護師が看護に専念できるよう調整していく必要があることを、肝に銘じた

どこの施設でも起こりうる事例だと思います。川島先生が看護師がすることなのかと問われ、ハッとしました。

管理者が感じる悩みを解消することは難しいため、管理者間で話し合える環境があるといいと思いました。

複雑な問題が絡んでいる事例であり、倫理委員会などでも審議が必要だと感じた。現場の看護師は本当に真摯に患者・家族の身になって考え日々大変だと感じる

質問4: 事例2について、ご意見やご感想がございましたらご記載ください

改めて倫理問題には正解がなく、時代に合わせた考え方が必要であることを考えさせられました

告知は、本人が知りたいか否かで小児も同様に考えたことがあるので理解しやすかった。宗教の重要性を学んだ

国籍と文化の違いで看護をどのように実践するか、葛藤する事例でした。

病名の告知がされていないことが中心的な課題になっていましたが、ベッドサイドでは、告知の有無にかかわらず、言語でのコミュニケーションが難しいことで患者本人の気持ちが押し量り辛く、相手に合ったケアができていない(と考えている)ということもあるのかもしれないと思いました。もしくは、言語以外の情報から、患者の不安を鋭く推察していて、それを解決するすべがないことにもやもやしていたのかもしれないとも考えました。つまり、事例1も2も、そのあと一人でいろいろ考える種をいただいたので、提供してくださった方に、感謝したい気持ちでいっぱいです。

看護師が葛藤を抱くような、どのような事実があったのか、患者の様子が気になった

外国籍でも日本人でも、同等の権利があると思うので、難しいケースだと感じました。

価値、信念を大切に、自分の範疇で物事を考えないことが倫理は大切だと再確認しました。

質問5:次年度の研修で事例相談をしたい方は連絡先を記載してください

なし